

# 私も若槻の住民です



若槻の皆さん、私は国立病院機構東長野病院小児科医の関ひろみと申します。

生まれも育ちも現住所も、若槻の隣町の吉田なんです。インタビューのタイトルとは違いますが、上野の東長野病院に勤めて今年で10年目になります。昼間は「若槻の住民」ということでお許しをいただき、少し話させてください。

東長野病院は常設の診療科目として現在は内科、外科、小児科の3科、ほかに整形外科、眼科、精神科も曜日により外から先生が来られて診察が受けられます。若槻を中心に北部地方の基幹病院としての体制を整えております。しかし、“その割に”地域に溶け込んでいますか—と、問われると「さて、どうでしょうか？」と考え込みますね。

## 病院と地域は“相思相愛”で

病院と地域とのコミュニケーションが深まることは、住民の健康や福祉の面でも病院の発展や経営の面でも重要なことです。県内にも双方がよい関係を築いているケースがいくつかあります。東長野病院も地域の皆さんに様々な点で積極的にPRしてゆくことが必要です。また、地域の皆さんには診療に訪れること以外に、健康に関する相談や体験などにも病院に来て欲しいですね。日常生活で役に立つことが結構多いと思います。

東長野病院では毎年10月中旬に「病院祭」を開き、地域の皆さんに院内を開放しています。健康についての相談を受けたり、展示物を見てもらうなど医師と職員が一体になり取り組んでいます。この病院で診療を受けられた人は祭りに来てくださいますが、「医者に無縁」の方にもぜひ—と、お願いしたいです。

地域と結ぶ活動の一つに若槻養護学校の存在があります。ここに学ぶ子どもたちには、私たち医師の役割が欠かせません。また、子どもたちに焦点を絞った企画として、「チャレンジ入院」というのがあります。夏休みを利用して小中学生に呼び掛け、一週間入院してもらうシステムです。男女4人ずつのグループを編成し、それぞれが抱える悩み、例えば肥満や不登校の原因などを、一緒に考え改善の方法を見つけましょう、という試みです。

## ともに「開かれた病院」を

「コミュニティわかつき」のみなさんをお願いしたいことがたくさんあります。一つは三才方面と東長野病院を結ぶバスの便を図って欲しいですね。地元との結びつきを考えると交通網の整備は欠かせません。若槻だけの問題ではないでしょうが、近隣の地区と協力して市などへ働きかけをお願いします。

私たちは毎日精一杯診療に追われていますが、それでも地区で行う講演会の講師やアドバイザーの要請があれば「出前講座」もします。

院内では皆さんに参加してもらえる勉強会も開いています。「開かれた病院」のため地域との連帯を常に心がけております。

私は主人も勤務医(長野市民病院)で子どもは高3を筆頭に3人、老母も一緒に住み家に帰ればほとんど専業主婦。たとえ病気でなくても“近所の奥さん”に相談に来るようなノリで病院を訪れてほしいですね。

